

製品名: POM121 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab16366**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	125kDa

抗原情報

遺伝子名	POM121 POM121; KIAA0618; NUP121; POM121A; Nuclear envelope pore membrane protein POM
別名	121; Nuclear envelope pore membrane protein POM 121A; Nucleoporin Nup121; Pore membrane protein of 121 kDa; POM121B; Putative nuclear envelope pore membrane prote
遺伝子 ID	9883.0
SwissProt ID	Q96HA1/A6NF01/A8CG34
免疫原	抗血清はヒト POM121 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1197-1246

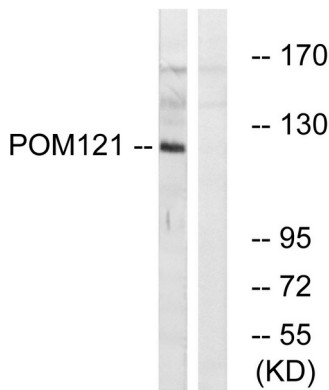
背景

この遺伝子は、核膜内局在し、核膜孔複合体の中核構成要素を形成する膜貫通タンパク質をコードし、核内輸送を媒介する。コードされているタンパク質は、この複合体を核膜に固定すると考えられる。この遺伝子には、5番染色体、7番染色体、15番染色体、および22番染色体に複数の関連遺伝子および疑似遺伝子が存在する。異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが観察されている。[RefSeq 提供、2013年7月],ドメイン: F-X-F-G 反復配列を含む。機能: 核膜孔複合体 (NPC) の必須構成要素。この反復配列を含むドメインは、核膜孔複合体の構成要素を核膜に固定する役割を担っていると考えられる。細胞内で過剰発現すると、細胞質環状ラメラ (AL) の形成を誘導する。類似性: POM121 ファミリーに属する。細胞内局在: 間期を通して NPC と、中期には小胞体と安定して関連する。、

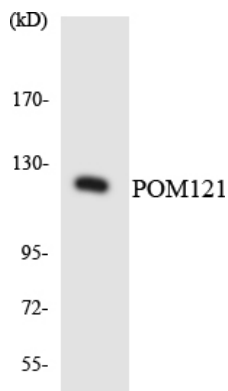
研究分野

-

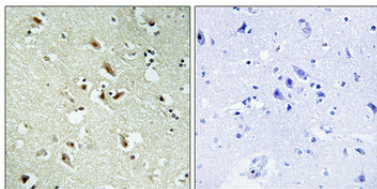
画像データ



POM121 抗体を用いた K562 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



POM121 抗体を使用した HUVEC 細胞溶解物のウェスタンブロット分析。



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。